

問 1

患者中心の生命倫理～脱パターンナリズム～（19 字）

問 2

「ヒポクラテスの誓い」を文言通り受け止めるのではなく、患者へのわかりやすい説明や意見の傾聴等を通し、納得のいく診療を心がけ、独善的・パターンナリズム的な姿勢を排した態度で患者に接するべきだということ（98 字）

★以下に相当する趣旨の記述があるかチェック

- ①「ヒポクラテスの誓い」を文言通り受け止めてはいけない
- ②患者へのわかりやすい説明・傾聴等を通し、納得のいく診療をする
- ③独善的・パターンナリズム的な態度ではいけない

問 3

本文にも述べられているとおり、医師に求められる倫理は、患者に対し独善的にならず、パターンナリズム的な姿勢を排した態度であると考え。患者本人が病について理解しないまま、あるいは自身がどう治療を進めたいかを無視したまま、医師が独善的に診療を進めてしまつては、治療はおろか患者へ苦痛を与えてしまうことになりかねない。そのため、患者への丁寧な説明・傾聴の姿勢等を通じ、納得のいく治療を進める必要があるのだ。

とはいえ、なんでもかんでも患者の求めるとおり治療を進めるべき、というわけではない。医療の現場では、安楽死やデザイナーベビーなど、実行すべきか否か微妙で繊細な医療行為も存在する。これらの生命倫理的な議論を抜きにし、「患者が望むから…」と安易に医療行為を実行するのも問題であろう。患者の救命と健康を維持するためという目的の下、生命の尊厳あふれる医療を適切に行えることが、医師の倫理には求められている。

（400 字）

